

九州農政局国営事業事前評価技術検討会の意見

ひとつせがわ
一ツ瀬川地区(宮崎県西都市、児湯郡高鍋町、新富町及び木城町)
は、昭和 47 年度から昭和 60 年度に実施された国営一ツ瀬川土地改良事業及び関連事業により農業水利施設が整備されてきた。水稻を中心に、施設園芸ではピーマン等の野菜、畑では野菜や茶、果樹等による農業経営が展開されており、施設野菜をはじめとする高収益作物への転換が図られている。

本地区では、造成された農業水利施設は、造成後 30 年以上が経過しており、幹線水路においては、漏水や弁類の老朽化等による機能低下が進行している。特に東原調整池^{ひがしばる}においては、過去に発生した漏水により、貯水機能を十分発揮できず、農業用水の安定供給に支障をきたしているとともに、維持管理に多大な費用と労力を要している。また、水稻作期の前倒し、茶の防霜用水等の栽培管理に必要な用水の需要といった新たな農業用水の利用実態の変化への対応が必要となっている。

このため、国営かんがい排水事業により、老朽化が進行している農業水利施設の機能保全対策を行うとともに、農業用水の需要に対応した用水計画の策定が望まれる。それにより、農業用水の安定供給と維持管理の費用と労力の軽減が図られ、新たな需要における農業生産性の向上及び農業経営の安定を実現することが期待される。

九州農政局国営事業事前評価技術検討会では、関係資料の確認を行い、国営事業の新規地区採択に当たり、チェックリストの各評価項目について検討を行った。

その結果、評価項目である事業の必要性、技術的可能性、効率性、公平性、環境との調和への配慮、事業の採択要件及びその他の評価項目について、適切に評価されていると判断する。